

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



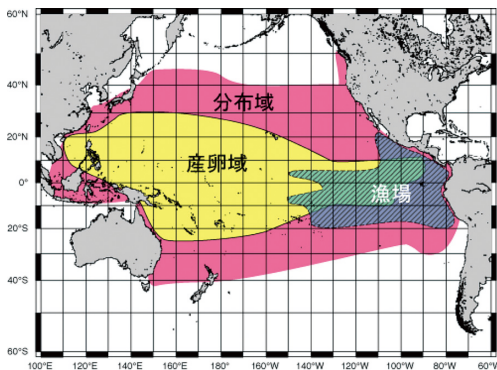
管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近一年間の動き

太平洋全域のカツオは主に中西部太平洋で多く漁獲される。2011年の中西部太平洋の漁獲量が約156万トンであるのに対し、2011年の東部太平洋におけるカツオの総漁獲量は27.9万トンと中西部太平洋の約2割弱程度である。1980年以降の東部太平洋のカツオ最大総漁獲量を見ても2006、2008年の29.8万トンにとどまっている。2012年東部太平洋のカツオ資源状態は、異なる4つの手法 (a. 漁業・生物学的指標値；b. 標識データ解析；c. サイズ組成資源評価モデル；d. 空間資源動態モデル SEAPODYM) に基づいた結果を比較・検討して評価された。しかし、これらの方法による結果に不確実性がともなうため、8つの指標値 (漁獲量、流れ物操業 CPUE、素群操業 CPUE、標準化努力量、平均漁獲個体体重、相対資源量、相対加入量、相対資源利用率) の傾向から資源状態を評価した。その結果、東部太平洋におけるカツオ資源の現状は不確実であり、カツオ資源に危機が迫るような明確な証拠はない、との結論に達している。

- 生物学的特性**
- 寿命：6歳以上
 - 成熟開始年齢：1歳
 - 産卵期・産卵場：周年・表面水温24℃以上の海域
 - 索餌場：熱帯・温帯域
 - 食性：魚類、甲殻類、頭足類
 - 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類など



東部太平洋におけるカツオの分布と漁場 (Matsumoto *et al.* 1984, Schaefer 2001)

利用・用途

缶詰原料

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網によるもので、近年の総漁獲量は20～30万トンを維持している。まき網では、付き群れと素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、ベネズエラ、コロンビア等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄による僅かな量のみである。

漁業資源の動向

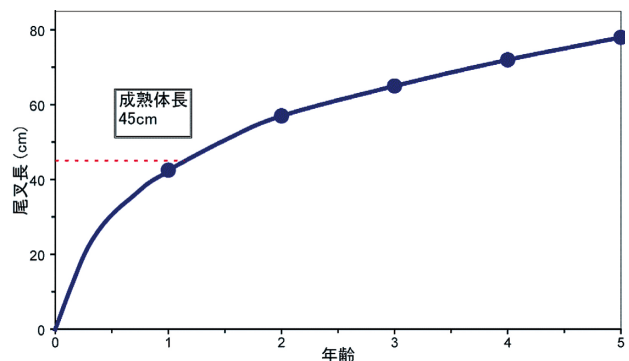
1950年代までは竿釣りを主として約5万トンの漁獲であったが、1960年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990年代から漁獲量は増加傾向にある。

資源状態

加入量の変動が大きく、資源量は加入量の変動にともない変化する。2002年と2003年の連続した強い加入が、2003年の資源量と漁獲量を増加させている。最近年の加入量推定値は信頼性が低い値ではあるが、水準が低く、そのため今後の資源量と漁獲量の低下が示唆される。漁獲死亡率は自然死亡率と同等か、もしくは低いと推定されている。本資源の量変動は加入量変動で引き起こされてきたため、将来の資源動向も加入量の水準で決定されると考えられる。

管理方策

特段の資源管理方策はとられていないが、まき網漁業は62日間の全面禁漁及び沖合特定区での1か月間の禁漁措置が導入されており、結果的に漁獲努力量が制限されている。

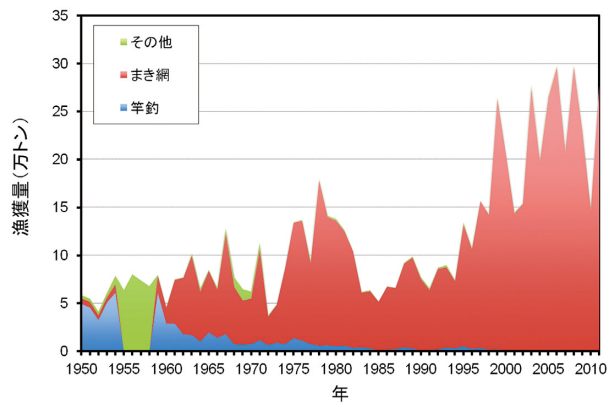


東部太平洋におけるカツオの成長 (Matsumoto *et al.* 1984)

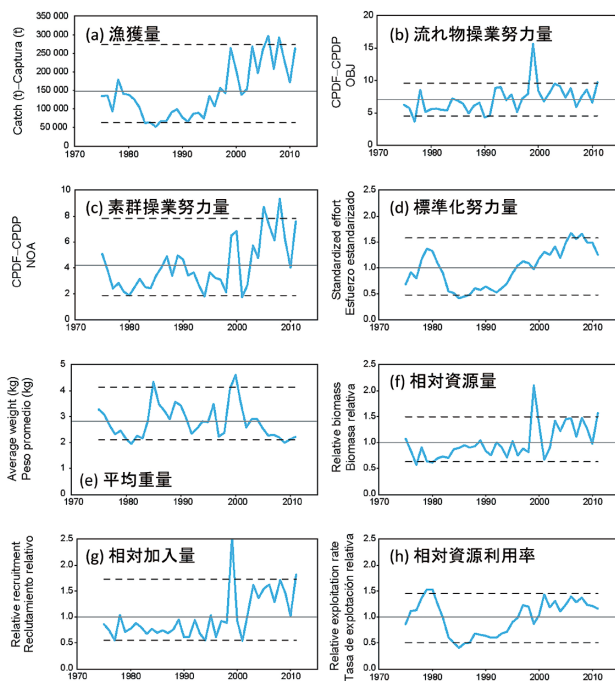
| 資源評価まとめ | |
|---------|------------------------|
| ■ | 資源評価は IATTC により実施 |
| ■ | 資源量は、加入量にともない変化する |
| ■ | 漁業が資源の減少を引き起こしている証拠はない |

| 資源管理方策まとめ | |
|-----------|--------------------------------|
| ■ | 本資源には IATTC による資源管理方策はとられていない。 |

| カツオ（東部太平洋）の資源の現況（要約表） | |
|-----------------------|--|
| 資源水準 | 高位 |
| 資源動向 | 横ばい |
| 世界の漁獲量 (最近5年間) | 14.9～29.8万トン 平均：23.7万トン (2006～2010年) |
| 我が国の漁獲量 (最近5年間) | 17～82トン 平均：43.4トン (2006～2010年) |



東部太平洋における漁法別カツオ漁獲量（データ：IATTC 2012）



東部太平洋におけるカツオ資源指数（Maunder 2012b を改変）
 (a) まき網による漁獲量、(b) 流れ物操業努力量、(c) 素群操業努力量、(d) 標準化努力量、(e) 平均重量 (kg)、(f) 相対生物量、
 (g) 相対加入量、(h) 相対資源利用率（CPDF：Catch per days fished）